

協創経営的課題解決♪

～ 課題解決 + インターンシップ ≧ *in vitro* ～

キーワード インターンシップ、課題解決、工学、マネジメント

工学部 協創経営プログラム 教授 尾田 雅文

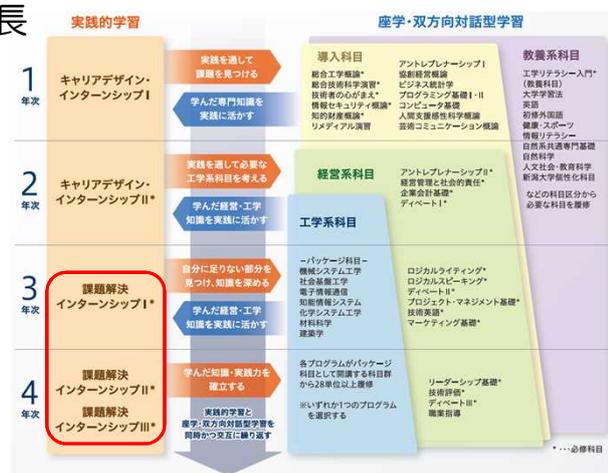
概要

工学部工学科協創経営プログラムでは、従来の職場体験型、あるいは就職活動の一環としてのインターンシップの枠を超えた、研修学生、受入企業様、そしてプログラム教員の三者共同で企業における経営課題や技術課題に取り組む「課題解決インターンシップ」を行なっています。協創経営プログラムで実施している教育プログラムの特長(工学とマネジメントの融合教育)と併せて、本インターンシップの特長についてご紹介します。『是非、研修生の受入れをご検討下さい。』

詳細

○工学部工学科協創経営プログラムのカリキュラムの特長

- 社会に必要なモノやシステムを創造する「**工学**」と、社会の課題をチームで解決策を創出するための「**マネジメント**」の双方を扱う(**技術経営**)
- 「マネジメント」はプログラム学生全員が履修
- 「工学」は、1,2年次に履修する職場体験型の「**キャリアデザイン・インターンシップ**」を通じて、学生自身が身に着きたい「工学」分野を学生個々が明確化し、7つのプログラムパッケージの中から1つを選択・履修(全員)



○課題解決インターンシップ

- 3年次第4ターム(概ね12月～2月)と4年次第3, 4ターム(概ね10月～2月)に実施
 - ・ 第4タームにおいては、3年生および4年生の混成チームによる取組みも可能
- 受入れ組織の具体的な課題を対象に、解決方法を立案・実施(卒業研究相当)
 - ・ じっくり課題に取り組める環境(課題解決インターンシップI, II, III)
 - ・ **得られた成果は受入れ組織で活用可能**
- 事前に研修生と受入れ組織とのマッチング、秘密保持を含む受入れに関する決め事の取り交しを行い、スムーズにインターンシップが可能な環境を整備
 - ・ 研修生にはそれぞれ指導担当教員を配置。課題解決の際、教員の知恵も活用可能
 - ・ 共同研究開発プロジェクトへの発展も可能

○想定されるインターンシップ研修テーマ例

- 社内QCTサークル活動への研修生参加を通じた課題解決
- 次世代製品開発のフィージビリティ・スタディ
- 技術マーケティングの調査・検討
- その他

【実施例】

既存の共同研究の成果物であるブロックシート(写真)は、利用者の身体に合わせてブロックを精層し、座位保持と褥瘡予防の双方を両立可能な介護用品をカスタムメイドできるモノです。しかしながら、本製品を介護の現場で普及させるためには「組立レシビ」の開発が必要でした。そこで、福祉介護施設での課題解決インターンシップの場を活用して、その課題解決を図っています。



応用を期待する分野

当プログラムの学生が選択可能なプログラムパッケージは、「機械システム工学プログラム」、「社会基盤工学プログラム」、「電子情報通信プログラム」、「知能情報システムプログラム」、「化学システム工学プログラム」、「材料科学プログラム」、「建築工学プログラム」の7つです。従って、機械、電気、電子、情報、化学、土木、建築および技術経営の分野で、課題解決の取組みが可能です。